

自ら考え、関わり合いながら学ぶ子どもの育成 ～「できた」「わかった」が実感できる算数科の授業づくり～

< 目指す子ども像① >

自ら考え、表現する子ども

仮説
1

課題設定や教材教具の工夫，既習事項を明確にすることによって，児童が自主的に考え見通しをもって学習に取り組むことができるであろう。

キーワード

「問題」をきっかけに「課題」を引き出す工夫

視点
1

- ①既習事項の明確化
- ②基本的学習スタイルの確立
- ③課題設定の工夫
- ④教材教具の工夫
- ⑤実態に応じた指導の工夫

キーワード

「考える力」の育成

森の子学級

児童一人ひとりに応じた
生きる力を育むための指導のあり方

< 目指す子ども像② >

互いの考えを認め、学び合う子ども

仮説
2

一人一人の思いや考えを大切にする「話し合い活動」（伝える・考えを受け止める・練り合う）の場を学習過程に位置づけることで，新しい気づきや考えを深めることができるであろう。

キーワード

分かりやすく伝える力の育成

視点
2

- ①基礎基本の定着
- ②わかりやすく伝える力
- ③交流形態の工夫
- ④考えを深める場の設定
- ⑤わかったを実感できる振り返り

キーワード

「学び合い」の充実

里の子学級

輝くひとみで主体的に活動する児童の育成
～一人一人の持ち味を大切にしたい関わりをもとめて～